

『明大学費闘争』（仮題）作成への協力を

一昨年の「明大11月17日に集う会」の席上、宮崎先生が挨拶の中で、「あれほど激しく闘われた明大学費闘争の記録が殆ど残っていない」。資料集と云うかたちでもいいから、是非記録に残したい」との提案をされました。学生の護民官たる氣概をもつて、学生部長として事にあたられた宮崎先生に云うては、明大学費闘争が「2・2協定」である様に終息したため「ボス交」のレッセルが貼られ、否定的にしか評価されていないことにたいし懇切たるおもいがあり、事実を明らかにすることによって、正当な評価を！と思つておられるのでしょう。

私個人としては、「ボス交」との烙印を捺された

「2・2協定」の屈辱を、逆にバネとして学生運動にのめり込み、燃えつきたようなもので、その意味では既に自己完結したものとして、明大学費闘争を捉えていました。（私にとって「2・2協定」とは^{参考}）

しかし、あれからすでに35・6年も経つのに、当時の仲間たちが集まると、決まって一番話が盛り上がるのは、明大学費闘争と「2・2協定」のことです。それも、不思議なことに、明大の集まりだけでなく、他大学、各党派の人たちの集まりでも、侃々諤々の議論となるのです。それは、酒の所為ばかりとは云えない、何があるようだ。そう思いながら、ここ2・3年、当時キーマンのひとりであった、情況出版の古賀さんに、「2・2協定」のはなしを、時には尋問するようにしつこく、聽きました。その結果、「2・2協定」に至る過程、当時の学内情況、ブント内の確執、党派の力関係、思惑などを少し解つてました。それが解明できたからと云つて、いまさらどうなる訳ではないことは、重々分かっています。しかし、事実関係については、出来る限り明らかにし、記録に残すことは、自分にとつてもそれなりの意義あることと思い、宮崎先生の提案に応え、協力することに決めました。

そこで、義兄にあたる古賀さんに、斎藤克彦さんを紹介していただき、連絡をしたところ、「宮崎先生とは会いたい」とのことだったので、昨年の1月29日、3人で

会いました。宮崎先生の語られる熱い想いにほだされか、斎藤さんも「資料集」作りに協力することを快諾されました。その後、何回か3人で会い打ち合わせをして、宮崎先生を中心となつて「資料集」を作成することを確認し、私は主に学生側の資料を集めることになりました。しかしながらぶんにも35、6年も前のこのため資料が見つかりません。唯一、入手できたのが、三一書房の資料・戦後学生運動（第7巻）に載っている「明大学費闘争」に関する資料、論文だけです。それと、副次的資料として「一大衆政治家の軌跡」松本礼二＝高橋良彦遺稿（追悼集）に収められている「証言②」（明大学費闘争とアント学対指導）「証言③」（明大学費闘争とアント学対指導）（明大学費闘争「二・二協定」の経過）が手元にあります。これだけでは、全くもって不十分です。

そこで、みなさんにお願いがあります。ひとつは、当時の資料がありましたら、是非 提供してください。一枚のアジビラだけでも結構です。もうひとつは、「明大費闘争」について語つてください。「あのとき、こんなことがあった」とか「いま おもえは、どうだとか」とか、何でも結構です、「明大学費闘争」について、みなさんの「おもい」を文章にしてください。それも「資料集」に載せたいと思います。お願いします。

2002年3月 米田隆介